



李昇姫 Seunghee LEE

准教授 Associate Professor

博士 (デザイン学) Ph.D.

Keywords: 感性情報、感性デザイン、感性情報、感性インタラクション、HCI

Contact: seungheekansei@gmail.com, lee.seunghee.gn@u.tsukuba.ac.jp

<https://kansei.design/en/>

IMAGINE
THE
FUTURE.



筑波大学
University of Tsukuba

研究概要

人間の意思決定には、肯定的な実体験の集合体である「感性」が作用しています。感性は心の働きとして脳活動や認知に深く関わっており主観的な経験に基づくものであります。

李研究室 (Leelab.) は、感性情報学を基に 2001 年に立ち上げ、これまで認知科学・心理学・脳科学・情報工学・ロボット工学の分野との融合研究を通して創造性における脳活動を解明するなど「感性」の働きについて研究をしてきました。李は、1990 年代の筑波大学で始まった横断型融合研究プロジェクト

「感性評価構造モデル構築特別プロジェクト」と「世界的教育研究拠点の形成のための重点的支援—21 世紀 COE プログラム—」を解明する感性科学の推進—のコーメンパーとして日本における感性の基礎研究を推進してきており、現在はオランダの Delft 工科大学と Eindhoven 工科大学、韓国の KAIST、イタリアミラノ工科大学との共同研究を通して感性情報学の重要性を世界に広げています。

Human KANSEI Process: Unconscious Information Acquisition

• ONIGIRI MACHINE: A Device for Children's Safety by Funding of SCOPE Project (2009-2010)

• Design Development of Highly Accessibly for Tokyo Olympic Games, TOYOTA Special Project (2017)

• New Interface Design of Future Self-Driving Car (2017)

論文

- 1) Lee S.H., Harada A., Stappers P.J.: Chapter 16 Design based on Kansei, Pleasure with Products : Beyond Usability, Edited by Green B., Jordan P.W., (Overbeeke K., Djajadiningrat T., Hummels C., Wensveen S., 他 45 名中 28 番目) , Taylor and Francis, London, pp.219-229, 2002 (分担共著)
- 2) 木村峻介, 松本卓人, 矢澤櫻子, 星野准一, 李昇姫, 浜中雅俊: 屋内位置検出を利用した子ども見守りサービスシステム, 情報処理学会論文誌, 情報処理学会, Vol.56, No.3, pp.856-868, 2015 (査読付き) (JIP 特選論文賞)
- 3) Atsuta K., Hamanaka M., Lee S.H.: Concert Viewing Headphone, International Journal of Computer Games Technology, Vol.2011, Article No. 10, 10 pages, 2011 (査読付き)
- 4) Lee S.H., Sohn J.H., Usami A., Hamanaka M.: Development of Wearable Device by Kid' s friendly Design for Kid' s Safety, Human Computer Interaction, Vol.332, pp.80-85, 2010 (査読付き)
- 5) Kowatari Y., Lee S.H., H.Yamamura, Levy P., Yamane S., Yamamoto M.: Neural networks involved in artistic creativity, Journal of Human Brain Mapping, Vol.30, Issue 5, pp.1678-1690, 2009 (査読付き)

社会貢献活動

総務省の SCOPE プロジェクト (2009~2010 年) を通して「子供の安全安心見守りシステム: おにぎりマシーン」を開発しました。子供の行動特性と心理、生理情報を組み合わせて、まさに「感性」をデザインに応用させた医学、工学との融合科学による研究開発が実現されました。総務省からは研究成果に対して高い評価を得て、今後は高齢者や障害者、子供、女性などの安全を見守る幅広いお守りシステムを構築していきます。

メッセージ

「思いやり」は生きがいの原動力です。

関連情報サイト

- 1) <https://www.oxfordreference.com/view/10.1093/oi/authority.20110803100141457>
- 2) <http://oberon.nagaokaut.ac.jp/ktjm/organic-self-consistent-field-theory/brain-formation-process.html>